

## 2018 信州総文祭 総合開会式出席報告

平成 30 年 8 月 7 日(火)

於 まつもと市民芸術館

第 42 回全国高等学校総合文化祭に参加される生徒の皆さんに、同窓会としてささやかな支援をさせていただき、その開会式に出席いたしました。

昨年来新聞紙面にてその名称は目にしておりましたが、恥ずかしながら具体的には何ぞやという程度の認識で開会式に臨んだ訳であります。

「文化部のインターハイ」とも呼ばれる国内最大規模の高校生の芸術文化の祭典。と銘打つだけあって、全国から集まった人たちで会場はいっぱい。

秋篠宮ご夫妻も出席され、お言葉を述べられました。

生徒代表が「信州で出会おう未来を作ろう僕らの情熱で」と開会宣言。

夢中になれる何かを探す高校生を描いた演劇を軸に生徒発表が行われ、最後はベートーベンの第九歓喜の歌と、テーマ曲に合わせた全生徒のダンスがフィナーレを飾りました。

「素晴らしい」のひと言しか見つかりません。数々の助言はあったであろうが、これだけのステージを作り上げた長野県の高校生にブラボー！！です。

エネルギーと熱気に溢れたステージに軽い疲れを覚えつつ、この次に信州総文祭が行われる 40 数年後は、どんな日本になっているだろうと考えながら帰途につきました。

(岸 記)

# 信州総文祭熱く開幕



総合開会式のフィナーレで大会イメージソングに合わせてダンスを披露する生徒たち＝7日、まつもと市民芸術館

## 松本で開会式

### 演劇や市街パレード

高校生の文化芸術の祭典・第42回全国高校総合文化祭「2018信州総文祭」は7日、まつもと市民芸術館（松本市）で総合開会式を行った。生徒代表が「信州（こし）で出会う未来をつくろう僕らの情熱で」と開会を宣言。総勢844人による生徒発表を行い、2千人を超える高校生が市街地をパレードした。総文祭は11日まで5日間、県内17市町で演劇や合唱など28部門を行い、全国から集まる約2万人が日頃の文化活動を披露する。

（唐澤翔）17面に関連記事

総合開会式は一般約1250人が来場。秋篠宮（夫妻）も出席された。代表生徒入場では、47都道府県と28部門などの生徒が一人ずつ、地元や各部門の魅力をアピール。昨年の開催地・宮城県から全国高校文化連盟旗が引き継がれると、生徒実行委員会代表が声高らかに開会宣言をした。生徒実行委員長の桐山尚子さん（17）＝伊那北3年＝は「信州総文祭が今、開幕する。私たちにしかできないハート（モト）をつくり、あふれる情熱を作品に、舞台に込めよう。ここ信州で輝こう」と力強く語った。

生徒発表は、夢中になれる何かを探す高校生を描いた演劇を軸に楽器演奏やダンスなどを織り交せる演出で、生徒が入れ替わり立ち代わり登場。最終盤には諏訪清陵（諏訪市）や伊那西（伊那市）など22校で構成する音楽隊などが大会ソング「ここに」を演奏し、全生徒がダンス。中心に立った桐山さんが「全ての人の胸に宝物として残る5日になることを願う」と涙

## 諏訪東理大で自然科学部門

### 全国155校600人が交流



ポスター発表で熱心に研究内容を説明する生徒たち

信州総文祭の自然科学部門は7日、茅野市の公立諏訪東京理科大学などを会場に3日間の日程で始まった。地元諏訪清陵、東海大諏訪のほか全国155校から、約600人が訪れた。8日まで物理、化学、生物、地学の各分野の研究発表（149件）とポスター発表（37件）を同大学で行うほか、県内各地で巡検研修を実施。9日は茅野市民館で記念講演や生徒交流、表彰式がある。開会式では、東海大諏訪高吹奏楽部と科学部員が、御柱祭の木やりで訪れた高校生を出迎え。柳平千代（茅野市長）は、縄文時代に栄えた同市の歴史を紹介し、全国の若者を歓迎した。

研究発表は分野ごと教室に分かれて実施。東海大諏訪高は、バラシユートの落下運動と空気抵抗の特性について発表した。ポスター発表では、審査員が順番に回り、研究者の代表のプレゼンテーションを聞きながら審査した。総文祭自然科学部門生徒部会長の小林知由季さん（諏訪一葉3年）は「大会は生徒が多くの発見をし、生徒同士がより活発な交流ができるよう考えた。次の佐賀大会にしっかりとバトンが渡せるよう今大会を盛り上げたい」と話していた。（浜武司）